第174期

計 算 書 類

2024 年 4 月 1 日 か ら

2025 年 3 月 31 日 ま で

・貸借対照表

・損益計算書

・株主資本等変動計算書

・個別注記表

西武鉄道株式会社

貸　借　対　照　表

（2025年 3 月 31 日 現 在）

（単位：百万円）

科目	金額	科目	金額
（資産の部）		**（負債の部）**	
流動資産	**36,961**	**流動負債**	**417,736**
現金及び預金	3,705	短期借入金	238,503
未収運賃	2,057	未払金	52,076
未収金	6,687	未払費用	2,140
短期貸付金	14,840	未払法人税等	1,917
商品	178	預り連絡運賃	1,238
原材料及び貯蔵品	2,346	預り金	1,126
前払金	5,712	前受運賃	6,001
前払費用	485	前受金	112,211
その他の流動資産	949	賞与引当金	2,414
貸倒引当金	△ 2	資産除去債務	57
		その他の引当金	48
固定資産	**741,160**	**固定負債**	**126,452**
鉄道事業固定資産	334,134	長期借入金	88,412
付帯事業固定資産	76,878	鉄道・運輸機構長期未払金	3,464
各事業関連固定資産	4,674	繰延税金負債	17,923
建設仮勘定	153,599	退職給付引当金	14,918
投資その他の資産	171,874	役員退職慰労引当金	13
関係会社株式	100,522	役員株式給付引当金	2
投資有価証券	69,100	資産除去債務	816
長期貸付金	22	その他の固定負債	901
長期前払費用	1,361		
その他の投資等	868	**負債合計**	**544,189**
		（純資産の部）	
		株主資本	**211,937**
		資本金	**21,665**
		資本剰余金	**9,687**
		その他資本剰余金	9,687
		利益剰余金	**180,584**
		利益準備金	5,416
		その他利益剰余金	175,168
		特別償却準備金	1,032
		固定資産圧縮積立金	23,336
		固定資産圧縮特別勘定積立金	4,342
		別途積立金	2,300
		繰越利益剰余金	144,156
		評価・換算差額等	**21,994**
		その他有価証券評価差額金	**21,994**
		純資産合計	**233,931**
資産合計	**778,121**	**負債純資産合計**	**778,121**

損　益　計　算　書

（2024年４月１日から2025年３月31日まで）

（単位：百万円）

科目	金額	
鉄道事業		
営業収益	101,803	
営業費	91,025	
営業利益		10,778
付帯事業		
営業収益	22,342	
営業費	16,414	
営業利益		5,928
全事業営業利益		**16,706**
営業外収益		
受取利息及び配当金	3,872	
その他	442	4,314
営業外費用		
支払利息	3,833	
その他	184	4,018
経常利益		**17,002**
特別利益		
固定資産売却益	2,690	
工事負担金等受入額	2,360	
関係会社株式売却益	3,016	
その他	763	8,830
特別損失		
工事負担金等圧縮額	2,360	
減損損失	1,833	
その他	612	4,806
税引前当期純利益		**21,027**
法人税、住民税及び事業税	3,928	
法人税等調整額	1,753	5,682
当期純利益		**15,344**

株主資本等変動計算書

（2024年４月１日から2025年３月31日まで）

（単位：百万円）

	株主資本										
	資本金	資本剰余金		利益剰余金						利益剰余金合計	株主資本合計
		その他資本剰余金	資本剰余金合計	利益準備金	その他利益剰余金				繰越利益剰余金		
					特別償却準備金	固定資産圧縮積立金	固定資産圧縮特別勘定積立金	別途積立金			
当期首残高	21,665	9,687	9,687	5,416	1,045	18,228	6,772	2,300	151,588	185,352	216,705
当期変動額											
会社分割による減少									△111	△111	△111
剰余金の配当									△20,001	△20,001	△20,001
特別償却準備金の取崩					△13				13	－	－
固定資産圧縮積立金の積立						6,114			△6,114	－	－
固定資産圧縮積立金の取崩						△1,006			1,006	－	－
固定資産圧縮特別勘定積立金の積立							3,845		△3,845	－	－
固定資産圧縮特別勘定積立金の取崩							△6,275		6,275	－	－
当期純利益									15,344	15,344	15,344
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）											
当期変動額合計	－	－	－	－	△13	5,107	△2,430	－	△7,432	△4,768	△4,768
当期末残高	21,665	9,687	9,687	5,416	1,032	23,336	4,342	2,300	144,156	180,584	211,937

	評価・換算差額等		純資産合計
	その他有価証券評価差額金	評価・換算差額等合計	
当期首残高	23,750	23,750	240,455
当期変動額			
会社分割による減少			△111
剰余金の配当			△20,001
特別償却準備金の取崩			－
固定資産圧縮積立金の積立			－
固定資産圧縮積立金の取崩			－
固定資産圧縮特別勘定積立金の積立			－
固定資産圧縮特別勘定積立金の取崩			－
当期純利益			15,344
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	△1,756	△1,756	△1,756
当期変動額合計	△1,756	△1,756	△6,524
当期末残高	21,994	21,994	233,931

個　別　注　記　表

（重要な会計方針に係る事項に関する注記）

１．資産の評価基準及び評価方法

（１）有価証券の評価基準及び評価方法

子会社株式及び関連会社株式　……移動平均法に基づく原価法

その他有価証券

市場価格のない株式等以外のもの　……時価法

（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定）

市場価格のない株式等　……移動平均法に基づく原価法

なお、投資事業有限責任組合及びそれに類する組合への出資（金融商品取引法第２条第２項により有価証券とみなされるもの）については、組合契約に規定される決算報告日に応じて入手可能な最近の決算書を基礎とし、持分相当額を純額で取り込む方法によっております。

（２）棚卸資産の評価基準及び評価方法

通常の販売目的で保有する棚卸資産

評価基準は、原価法によっております。（貸借対照表価額は収益性の低下による簿価切下げの方法により算定）

商品　……主として最終仕入原価法

原材料及び貯蔵品　……平均原価法（移動平均法）

２．固定資産の減価償却の方法

（１）有形固定資産（リース資産を除く）

鉄道事業固定資産及び各事業関連固定資産については定率法、付帯事業固定資産については定額法を採用しております。

但し、鉄道事業固定資産の構築物のうち、取替資産については取替法の償却をおこなうとともに、取得価額の50%に達するまでは定率法を併用しております。

また、鉄道事業固定資産及び各事業関連固定資産において、1998年４月１日以降取得の建物（建物附属設備を除く）ならびに2016年４月１日以降取得の建物附属設備及び構築物については、定額法を採用しております。

なお、主な資産の耐用年数は次のとおりであります。

建物　２～50年

構築物　２～60年

車両及び運搬具　４～20年

（２）無形固定資産（リース資産を除く）

定額法を採用しております。なお、ソフトウェア（自社利用分）については、社内における利用可能期間（５年）に基づく定額法を採用しております。

３．引当金の計上基準

（１）貸倒引当金

売上債権、貸付金等の貸倒損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等の特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

（２）賞与引当金

従業員に支給する賞与に充てるため、支給見込額に基づき計上しております。

（３）退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき計上しております。

過去勤務費用は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（10年）による定額法により費用処理しております。

数理計算上の差異は、各事業年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（15年）による定額法により按分した額を、それぞれ発生の翌事業年度から費用処理しております。

（４）役員退職慰労引当金

役員の退職慰労金の支給に備えるため、役員退職慰労金規則に基づく期末要支給額を計上しております。

（５）役員株式給付引当金

役員への株式給付に備えるため、役員株式給付規程に基づく支給見込額を計上しております。

４．収益及び費用の計上基準

主要な事業における主な履行義務の内容及び収益を認識する通常の時点は以下のとおりであります。

（鉄道業）

主に乗車券及び定期券の販売から収益を獲得しております。乗車券については、輸送サービスを提供した時点で履行義務が充足されるものとし、サービス提供時点で収益を認識しております。定期券の販売に関しては、定期券の有効期間にわたって輸送する履行義務が充足されるものとし、有効期間に応じて収益を認識しております。

（代理人取引）

当社において財又はサービスの収益を認識するにあたり、当該財又はサービスを顧客に提供する前に支配していると判定されれば本人取引、判定されなければ代理人取引として収益を認識しております。顧客への財又はサービスの提供における当社の役割が代理人に該当する取引については、顧客から受け取る額から仕入先に支払う額を控除した純額で収益を認識することとしております。

５．その他計算書類の作成のための基本となる重要な事項

（１）工事負担金等の会計処理

鉄道事業における連続立体交差等の高架化工事や踏切道路拡幅工事等を行うに当たり、地方公共団体等より工事費の一部として工事負担金等を受けております。

これらの工事負担金等は、工事完成時に当該工事負担金等を取得した固定資産の取得原価から直接減額して計上しております。

また、損益計算書においては、工事負担金等受入額を特別利益に計上するとともに、固定資産の取得原価から直接減額した額を工事負担金等圧縮額として特別損失に計上しております。

なお、工事負担金等により取得した資産に付随して発生する費用のうち工事負担金等に対応する額については、工事負担金等受入額から直接控除しております。

（会計方針の変更に関する注記）

１．法人税、住民税及び事業税等に関する会計基準の適用

「法人税、住民税及び事業税等に関する会計基準」（企業会計基準第27号 2022年10月28日。以下「2022年改正会計基準」という。）等を当事業年度の期首から適用しております。従来、所得等に対する法人税、住民税及び事業税等（以下、「法人税等」という。）について、法令に従い算定した額を損益に計上することとしておりましたが、所得に対する法人税等について、その発生源泉となる取引等に応じて、損益、株主資本及び評価・換算差額等に区分して計上することとし、評価・換算差額等に計上された法人税等については、当該法人税等が課される原因となる取引等が損益に計上された時点で、これに対応する税額を損益に計上することとしました。なお、課税の対象となった取引等が、損益に加えて、株主資本又は評価・換算差額等に関連しており、かつ、株主資本又は評価・換算差額等に対して課された法人税等の金額を算定することが困難である場合には、当該税額を損益に計上しております。

法人税等の計上区分に関する改正については、2022年改正会計基準第20-３項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っております。これによる計算書類への影響はありません。

（会計上の見積りに関する注記）

会計上の見積りにより当事業年度に係る計算書類にその額を計上した項目であって、翌事業年度に係る計算書類に重要な影響を及ぼす可能性があるものは、次のとおりであります。

１．固定資産の減損

（１）当事業年度の計算書類に計上した金額

減損損失　1,833百万円、有形及び無形固定資産　569,285百万円

（２）会計上の見積りの内容に関する理解に資する情報

①当事業年度の計算書類に計上した金額の算出方法

固定資産のうち減損の兆候がある資産又は資産グループについて、当該資産又は資産グループから得られる割引前将来キャッシュ・フローの総額が帳簿価額を下回る場合には、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として計上しております。

②当事業年度の計算書類に計上した金額の算出に用いた主要な仮定

資産又は資産グループから得られる将来キャッシュ・フローについては、当社において機関決定されている中期経営計画に基づく資金収支を基礎として、見積りをおこなっております。

西武グループは、長期戦略の種まき期として、「西武グループ中期経営計画（2024～2026年度）」を策定しており、その計画数値については、2025年度は2024年度に引き続き、動力費、建築コストの高騰及び人財確保を目的とした賃上げ影響などの他、安全安心に資する設備投資増に伴う経費の増加を適切に反映することに加え、鉄道業における輸送人員はテレワークの定着などにより、2024年度と同水準との仮定に基づき算定しております。

なお、経営環境には不確実性を伴うため、実際の結果は上記仮定と異なる場合があります。

③翌事業年度の計算書類に与える影響

減損の兆候の把握、減損損失の認識及び測定にあたっては、外部の情報等を含む入手可能な情報に基づき慎重に検討しておりますが、見積り額の前提とした経営環境に変化が生じ、結果として将来キャッシュ・フローが減少した場合には、翌事業年度の計算書類において、さらなる減損処理が必要となる可能性があります。

（貸借対照表に関する注記）

１．資産に係る減価償却累計額

有形固定資産の減価償却累計額	563,064	百万円

２．担保資産及び担保付債務

担保に供している資産は、次のとおりであります。

鉄道事業固定資産（財団抵当）	326,173	百万円

担保付債務は、次のとおりであります。

長期借入金	88,412	百万円
短期借入金（一年内返済予定長期借入金）	9,026	百万円
鉄道・運輸機構長期未払金	3,464	百万円
未払金（一年内支払予定鉄道・運輸機構長期未払金）	555	百万円

３．貸株による担保資産及び調達資金

貸株に供している担保資産は、次のとおりであります。

投資有価証券	952	百万円

貸株により調達した資金は、次のとおりであります。

流動負債「預り金」	500	百万円

４．保証債務

金融機関からの借入に対する債務保証額は、次のとおりであります。

提携ローン保証	5	百万円

５．工事負担金等累計額

固定資産の取得原価から直接減額された工事負担金等累計額	139,387	百万円

６．事業用固定資産

有形固定資産	土地	115,691	百万円
	建物	108,661	百万円
	構築物	132,171	百万円
	車両及び運搬具	34,898	百万円
	その他	17,007	百万円
	計	408,430	百万円
無形固定資産		7,255	百万円

７．関係会社に対する金銭債権及び金銭債務

短期金銭債権	15,068	百万円
短期金銭債務	232,577	百万円

（損益計算書に関する注記）

１．営業収益	124,146	百万円
２．営業費	107,439	百万円

３．関係会社との取引高

営業取引による取引高		
営業収益	472	百万円
営業費	9,936	百万円
営業取引以外の取引高	26,548	百万円

（株主資本等変動計算書に関する注記）

１．発行済株式の種類及び総数に関する事項

（単位：株）

株式の種類	当期首株式数	当期増加株式数	当期減少株式数	当期末株式数
普通株式	433,304,640	－	－	433,304,640

２．配当に関する事項

（１）金銭による配当

決議	株式の種類	配当金の総額	１株当たり配当額	基準日	効力発生日
2024年６月21日定時株主総会	普通株式	20,001百万円	46円16銭	2024年３月31日	2024年６月24日

（税効果会計に関する注記）

繰延税金資産の発生の主な原因は退職給付引当金及び減損損失、賞与引当金の計上等であり、繰延税金負債の発生の主な原因は固定資産圧縮積立金及び合併受入資産評価差額等によるものであります。

（金融商品に関する注記）

1．金融商品の状況に関する事項

（1）金融商品に対する取組方針

当社は、資金運用については短期的な預金等に限定し、親会社である㈱西武ホールディングス及び外部金融機関からの借入により資金を調達しております。デリバティブ取引は、株式の価格変動リスクを回避するために利用し、投機的な取引はおこなわない方針であります。

（2）金融商品の内容及びそのリスクならびにリスク管理体制

投資有価証券は、主として株式であり、上場株式については四半期ごとに時価の把握をおこなっております。

短期貸付金は、子会社への貸付であり、財務状況を定期的に確認しております。

営業債務である未払金は、主に１年以内の支払期日であります。

借入金等（短期借入金、長期借入金、鉄道・運輸機構長期未払金）は、営業取引及び設備投資に係る資金調達であります。

また、営業債務や借入金は、流動性リスクに晒されておりますが、資金繰計画を作成するなどの方法により管理しております。

（3）金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することもあります。

2．金融商品の時価等に関する事項

2025年３月31日（当事業年度の決算日）における貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、市場価格のない株式等は含まれておりません（（注２）参照）。

	貸借対照表計上額（百万円）	時価（百万円）	差額（百万円）
（1）現金及び預金	3,705	3,705	－
（2）短期貸付金	14,840	14,840	－
（3）投資有価証券	58,955	58,955	－
資産計	77,500	77,500	－
（1）短期借入金(*)	229,477	229,477	－
（2）未払金	52,076	52,076	－
（3）長期借入金(*)	97,438	94,629	△ 2,808
（4）鉄道・運輸機構長期未払金	3,464	3,464	－
負債計	382,457	379,648	△ 2,808

(*)１年内返済予定の長期借入金は「（3）長期借入金」に含めて表示しております。

（注１） 金融商品の時価の算定方法ならびに有価証券に関する事項

資　産

（1）現金及び預金、（2）短期貸付金

短期間で決済されるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

（3）投資有価証券

株式は取引所の価格によっております。

負　債

（1）短期借入金、（2）未払金

短期間で決済されるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

（3）長期借入金

固定金利によるものであり、元利金の合計額を同様の新規借入をおこなった場合に想定される利率で割り引いて算定する方法によっております。

（4）鉄道・運輸機構長期未払金

市場金利を反映して一定期間ごとに金利が変動し、同様の鉄道・運輸機構長期未払金が発生した場合においても同じ金利条件であるため、当該帳簿価額によっております。

（注２） 市場価格のない株式等

区分	貸借対照表計上額（百万円）
非上場株式	10,145
関係会社株式	100,522
組合出資金(*)	0

(*)組合出資金については、匿名組合であり、「時価の算定に関する会計基準の適用指針」第24-16項に基づき、時価開示の対象とはしておりません。

（賃貸等不動産に関する注記）

1．賃貸等不動産の状況に関する事項

当社では、埼玉県及び東京都において、賃貸商業施設、賃貸オフィスビル、賃貸マンション及び遊休不動産等を所有しております。

なお、賃貸施設の一部については、当社が使用しているため、賃貸等不動産として使用される部分を含む不動産としております。

これら賃貸等不動産及び賃貸等不動産として使用される部分を含む不動産に関する貸借対照表計上額及び時価は、次のとおりであります。

2．賃貸等不動産の時価等に関する事項

	貸借対照表計上額 （百万円）	時価 （百万円）
賃貸等不動産	64,145	143,248
賃貸等不動産として使用される部分を含む不動産	2,573	6,490
遊休不動産	100	1,558

（注１）　貸借対照表計上額は、取得原価から減価償却累計額及び減損損失累計額を控除した金額であります。

（注２）　当事業年度末の時価は、主要な物件については社外の不動産鑑定士による不動産鑑定評価書に基づく金額（指標等を用いて調整をおこなったものを含む）、その他の物件については、一定の評価額や適切に市場価格を反映していると考えられる指標を用いて調整した金額によっております。

（関連当事者との取引に関する注記）

1．親会社及び法人主要株主等

属性	会社等の名称	議決権等の所有（被所有）割合	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額（百万円）	科目	期末残高（百万円）
親会社	㈱西武ホールディングス	被所有 直接　100%	資金の借入等 役員の兼任あり	ＣＭＳ取引 （注１、注２）	9,500	短期借入金	229,477
				利息の支払 （注２）	2,310	未払金	206

取引条件及び取引条件の決定方針等

（注１）　ＣＭＳ（キャッシュ・マネジメント・システム）取引の取引金額については、期首と期末の差額を純額表示しております。

（注２）　㈱西武ホールディングスからの資金の借入であり、借入金利は、市場金利を勘案して合理的に決定しております。

2．子会社及び関連会社等

属性	会社等の名称	議決権等の所有（被所有）割合	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額（百万円）	科目	期末残高（百万円）
子会社	多摩川開発㈱	所有 直接　100%	資金の貸付等	資金の貸付 （注１）	△1,060	短期貸付金	13,540
				利息の受取 （注１）	135	未収金	11

取引条件及び取引条件の決定方針等

（注１）　多摩川開発㈱への資金の貸付であり、貸付金利は、市場金利を勘案して合理的に決定しております。なお、取引金額については、貸付と回収を純額表示しております。

3．兄弟会社等

属性	会社等の名称	議決権等の所有（被所有）割合	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額（百万円）	科目	期末残高（百万円）
親会社の子会社	㈱西武リアルティソリューションズ	－	不動産の賃貸等 役員の兼任あり	賃貸料収入等 （注１）	12,529	－	－
親会社の子会社	㈱西武・プリンスホテルズワールドワイド	－	役員の兼任あり	関係会社株式の売却（注２） 売却代金 売却益	 10,127 3,016	－	－

取引条件及び取引条件の決定方針等

（注１）　価格その他の取引条件は、価格交渉の上、一般取引と同様に決定しております。

（注２）　関係会社株式の売却価格は、独立した第三者による株価評価書を勘案して決定しており、支払条件は一括現金払であります。

（１株当たり情報に関する注記）

１株当たり純資産額	539円87銭
１株当たり当期純利益	35円41銭

（重要な後発事象に関する注記）

１．重要な組織再編に関する事項

当社の親会社である㈱西武ホールディングスは、2024年12月12日開催の同社取締役会において、2025年４月１日を効力発生日として、会社分割（吸収分割の方式による。）により、当社の不動産事業の一部を㈱西武リアルティソリューションズ（以下、「ＳＲＳ」という。2025年４月１日付で㈱西武不動産に商号変更。）に継承することを決議しております。

（１）会社分割の概要

①取引の目的を含む取引の概要

「西武グループ長期戦略2035」に掲げる「不動産事業を核とした成長戦略」に基づき、当社の不動産事業の一部をＳＲＳへ集約することで不動産価値の顕在化に取り組んでいくことを企図しております。

②分割する事業の内容

不動産事業の一部

③日程

吸収分割契約の締結	2024年12月12日
吸収分割契約の効力発生日	2025年４月１日

④会社分割の方式

当社を吸収分割会社とし、ＳＲＳを吸収分割継承会社とする会社分割（吸収分割）であります。

⑤会社分割に係る割当ての内容

該当する事項はありません。

（２）実施した会計処理の概要

「企業結合に関する会計基準」（企業会計基準第21号　2019年１月16日）及び「企業結合会計基準及び事業分離等会計基準に関する適用指針」（企業会計基準適用指針第10号　2019年１月16日）に基づき、共通支配下の取引として処理しております。

（収益認識に関する注記）

１．収益を理解するための基礎となる情報

収益を理解するための基礎となる情報は、「（重要な会計方針に係る事項に関する注記）４．収益及び費用の計上基準」に記載のとおりであります。

（その他の注記）

１．減損損失に関する注記

当事業年度において、当社は以下の資産グループについて減損損失を計上いたしました。

（１）減損損失を認識した主な資産

用途	場所	種類	減損損失（百万円）
事業用資産 １件	埼玉県	建物、構築物、工具器具備品、無形固定資産	1,833

（２）資産グルーピングの方法

当社は、事業用資産および遊休資産については継続的に収支の把握を行っている管理会計上の区分を考慮して資産のグルーピングを決定しております。

（３）減損損失の認識に至った経緯

事業用資産について、営業終了の決定にともない回収可能性が見込めなくなったことから、資産の帳簿価額を回収可能価額まで減額し、減損損失を認識しております。

（４）資産区分ごとの減損損失の内訳

建物	1,772	百万円
構築物	54	百万円
工具器具備品	6	百万円
無形固定資産	1	百万円
合計	1,833	百万円

（５）回収可能価額の算定方法

事業用資産の回収可能価額は、使用価値により測定しております。使用価値は、資産の継続的使用と使用後の処分によって生ずると見込まれる将来キャッシュ・フローの現在価値をもとに算定しております。